



問

最近、目立つようになってきた荒廃農地防止対策について伺う

答

耕作放棄地解消計画に沿って、担い手農家、営農組合への情報提供、利用権設定等により解消していきたい



生ゴミ投入

町長

議員ご指摘のとおり、特に夏場の就労環境、特に臭いや暑さ対策については、まだまだ改善する必要があると考えている。現在でも、改善できるものから取り組んでいる状況である。

ご指摘いただいた改善点などについては、有効な改善ができないかどうかを担当課及び指定管理者に指示を行い、速やかに検討させていただきます。

環境課長

生ゴミ投入箇所の改良については、回収タ

問
「おおき循環センター」の生ゴミ投入の改良・生ゴミ回収タール洗浄器の改良及び投入施設室内温度が40℃を越す夏場の暑さ対策について伺う

ルを車より台に移動して、人力により投入口まで移動、異物混入の有無確認後、投入されている。投入の全面的な機械化は難しいと思われるが、投入台の高さの調整、

器具の取り付け等で改良できるか検討していきたい。また、生ゴミ回収タール洗浄機の改良については、人力によりタールを洗浄機に載せ、手で回しながら、熱湯により洗浄しているもので、暑さ対策と機械力によるタールの回転も含め、改良可能か検討していきたい。

投入施設の夏場の暑さ対策については、臭気等の対策として、常時室内の空気を脱臭して外部に排出し、空気が循環しているもので、全体的な冷房は困難な状況である。

作業員の暑さ対策としては、スポットクーラーの設置、保冷材の着用、給茶機の設置、十分な休憩の取得など、現

場担当者等の意見も聞きながら、すぐにできるものから取り組み、特に暑さ対策については井戸水による水冷式クーラー等の設置について検討を行っている。

ご指摘いただいた改善点などについて、今後も有効な改善が出来ないか検討していきたい。

問

荒廃農地の防止対策について、近年、耕作放棄地が目立つが、その指導はどのようにされているのか。

現在、全国レベルで耕作放棄面積は、2005年農林業センサス（統計調査）では、38万5千haとされ、福岡県においては、7030ha、本町においては、6.1haあり、近年、耕作放棄地が散見されるようになってきている。

産振課長

ご質問のとおり、近年、耕作放棄地が散見されるようになってきている。

現在、全国レベルで耕作放棄面積は、2005年農林業センサス（統計調査）では、38万5千haとされ、福岡県においては、7030ha、本町においては、6.1haありとされているが、当該調査における耕作放棄地とは、「過去1年以上作物を栽培せず、しかも今後も耕作する

はつきりした考えのない土地」と定義されており、町、農業委員会で直接調査したことがないので、どの程度の面積があるのか正確に把握していないのが現状である。

本年度に県のモデル市町村として、耕作放棄地全体調査を農業委員会において実施し、県農林事務所等の支援を受けながら、耕作放棄地解消計画の策定を行い、翌年度以降、耕作放棄地の解消に向けて活動することとしている。

農業委員会として、耕作放棄地に対する指導については、隣接農地の農家または住民の方から害虫等が発生し対処をお願いしたい等の連絡があった場合は、農業委員会事務局で現地を確認の上、所有者、耕作者に対し草刈、また本人ができない場合はシルバー人材センター等への依頼の対応をお願いしている。

今後の耕作放棄地解消への対応は、本年度策定を考